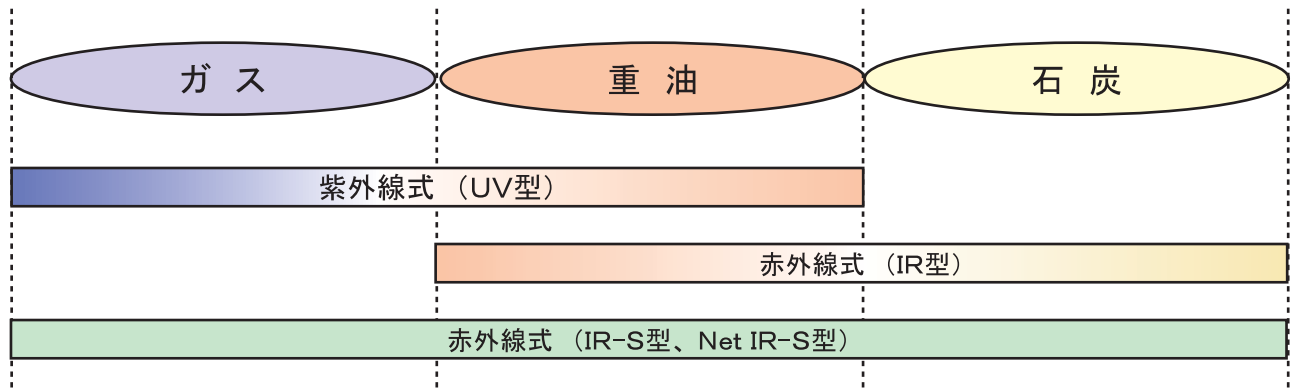
三菱Net IRーS型赤外線式火炎検出器は、各種燃料のボイラに適用できます。

◆三菱Net IR-S型赤外線式火炎検出器仕様

	項目	仕様
センサ本体	型　　式	防爆 （ExdⅡ BT4）、防水形
	寸　　法	全長：任意 ガイドパイプ:50A（40A）
	検出波長	500～1100nm
	許容温度	先端：400℃以下
		ガイドパイプ内:200℃以下
		アンプ部:60℃以下
		風圧：炉内圧＋150mmAq
	冷却空気	風量：15Nm^3/minセンサ

	項目	仕様
火炎検出器盤	型　　式	屋内閉鎖自立型、前背面扉付
	寸　　法	2,300mm(H)、810mm(W含む両側板)、
		800mm(D含む前背扉)
	構　　成	フレームデテクタモジュール、電源モジュール（2重化）、
		2重化メディアアダプタ、ターミナルベースユニット
	出力信号	火炎あり：1a、輝度レベル低：1a、
		電源喪失：1b、
		接点容量：DC125V／AC120V 0.5A
	周囲温度	0～＋50℃

◆従来の三菱火炎検出器を換装する場合、既存の機器を流用できます。

機器名称	既設火炎検出方式	
	UV型	IR型
センサ本体	換 装	換 装
火炎検出器盤	換 装	換 装
センサケーブル	流 用	換 装
ガイドパイプ	流 用	流 用
冷却空気配管	流 用	流 用
冷却空気ファン	流 用	流 用

三菱Net IR-S型赤外線式火炎検出器のご紹介には下記事項をお知らせ下さい。

1. ボイラの燃焼形式
2. 燃料の種類
3. バーナ本数
4. 火炎検出器盤の形式
5. 既設の火炎検出器仕様
6. その他 （お見積範囲、ご希望納期、納入場所、仕様上のご希望）

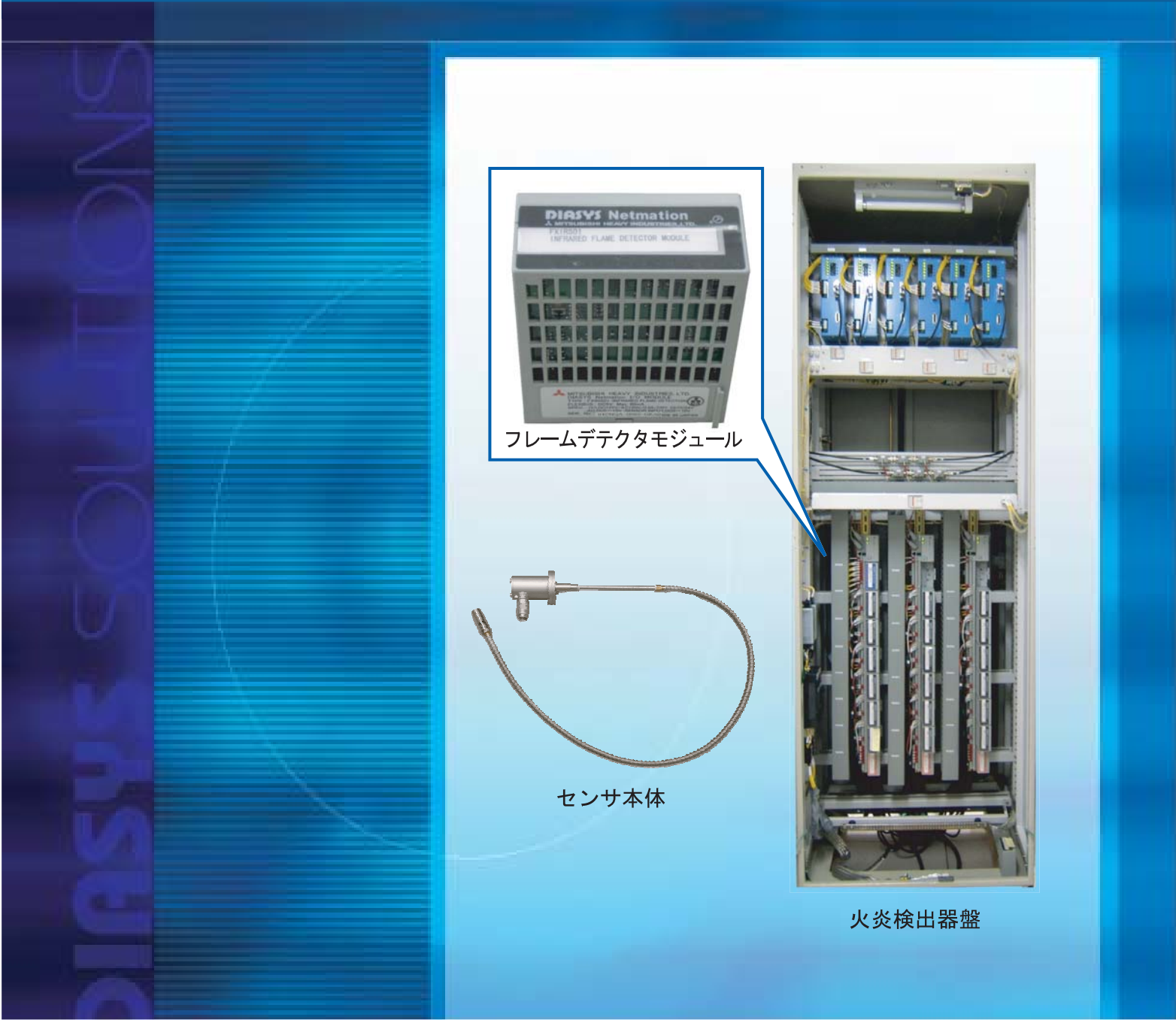
ご使用の際は、製品に添付の取扱説明書をよくお読みの上正しくお使い下さい。
本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
本書掲載の製品説明は、製品改良などのために実際の製品と違っている場合がありますのでご了承下さい。

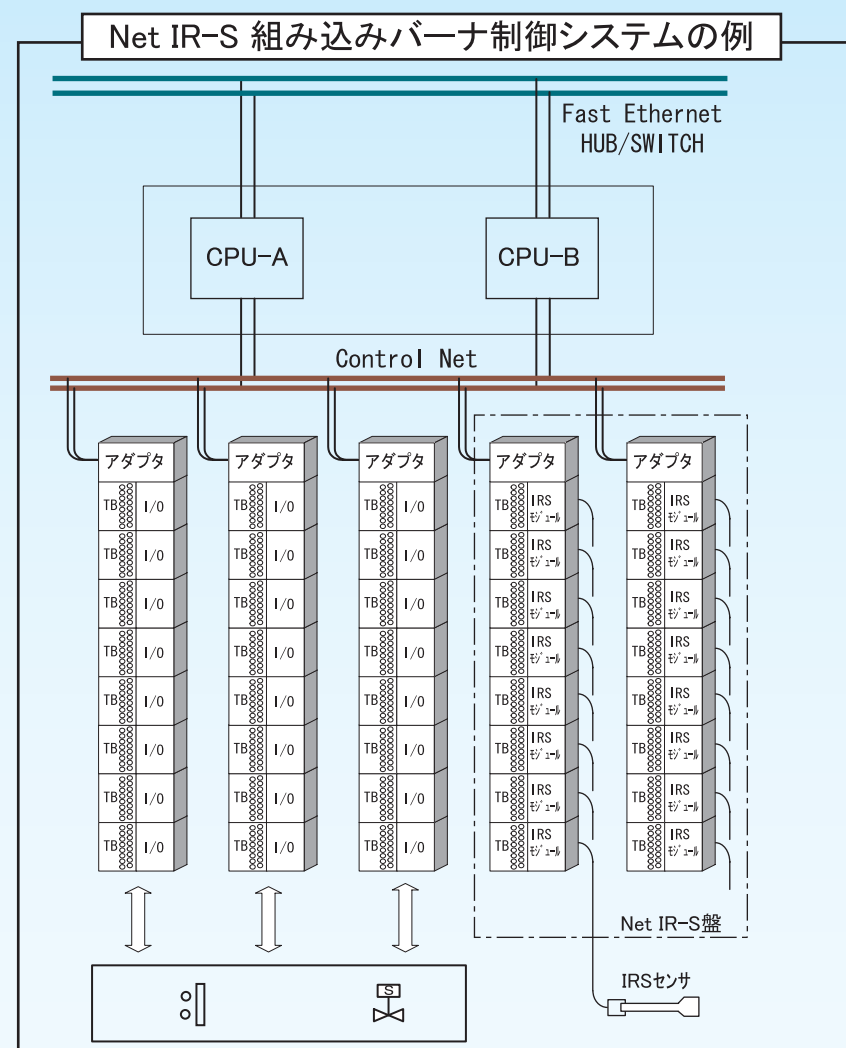
本社 東京都港区港南2-16-5 〒108-8215
TEL: 03-6716-3111（大代表）
ホームページ: http://www.mhi.co.jp/power

DIASYS SOLUTIONS

TA Version 1.1
TAC003-G001
2005.10.1

三菱 Net IR-S型 赤外線式火炎検出器

フレームデテクタモジュール
センサ本体
火炎検出器盤

広域ダイナミックレンジで 確実な火炎監視と ヒューマンマシンインタフェースを実現！

近年の火力発電所の監視制御システムはインターネット、イントラネット等の通信技術、パワフルなデータベース、高性能かつ低価格なパソコンを含めたハードウエア、使いやすいヒューマンマシンインタフェースソフトウェアが求められています。
DIASYS Netmation® IR-S（Net IR-S）は、火力発電所で求められている近代的監視制御システムのニーズにこたえるため、実績のある三菱IR-S型赤外線式火炎検出器に、三菱重工の最新制御システムであるDIASYS Netmation®と一体化し、バーナ制御システムの一機能として製品化した火炎検出器です。
Net IR-Sのセンサ本体は、従来のIR-Sセンサを使用しており、「検出の信頼性」「保守性」「経済性」を継承しています。さらに、判定回路部分はDIASYS Netmation® のモジュールとして構成され、Netmationの上位系と結びつくことで、使いやすいヒューマンマシンインタフェースを実現しています。
また、火炎検出器単独システムとして、バーナ制御装置と独立させた盤設計も可能です。
以下にバーナ制御装置に組み込んだ例を示します。

＜特　徴＞　バーナ制御と火炎監視を一体化することにより、次の特徴がうまれます。
・バーナ制御システムの保守ツールで、監視・調整・保守が可能。
・共通ラインで保守が容易。
・コンパクトな外形。
・制御ケーブルの取合いが省略。

三菱 Net IR-S 型赤外線式火炎検出器の特長

高い信頼性

■高感度設計
新設計のセンサー回路でバーナ火炎を安定検出。未着火ゾーンを透して火炎を検出します。

■検出範囲拡大
緩慢燃焼から高輝度炎まで安定検出する。従来製品の100倍のダイナミックレンジを有し、現場センサの感度調整が不要です。

優れた保安性

■メンテナンスフリー
ボールレンズの採用によりセンサ窓の清掃が不要となりました。

■長寿命センサ
長寿命な半導体の赤外線センサ素子採用により、定期的な交換が不要です。

優れた経済性

■盤面数の削減
デテクタモジュールは省スペース設計とし、盤1面で40コーナーを収容できます。

■ボイラ設備の流用
換装工事では、ボイラ本体の工事は不要です。

■ケーブルの流用
センサと盤間のケーブル換装は不要です。

＜重油バーナの例＞

＜センサ本体＞